

福井大学高エネルギー医学研究センター  
放射線医学総合研究所分子イメージングセンター  
センター長 藤 林 靖 久

2009年3月15日～20日の5日間、笹川記念保健協力財団日中医学奨学制度により中国医科大学附属第一医院放射線科教授・李 亜明先生のお招きを受け、遼寧省瀋陽市に滞在させていただいた。中国医科大学は70年の歴史を持ち、中国共産党が創立した最初の医科大学である。1931年にその前身である中国工農紅軍医学校・衛生学校が江西省で設立され、1940年に毛沢東主席によって中国医科大学と改称、1948年に現在の瀋陽に移転するとともに、旧南満州鉄道株式会社が1911年に開設した南満医学堂（後に南満医科大学、1945年に国立瀋陽医学院となる）ならびに私立遼寧医学院と統合され現在に至っている。第一病院の正面玄関には南満医学堂時代のレンガ建築が歴史的建造物として保存利用されており、また、その近隣にはその同時期に日本が建設した銀行、ホテル等が美しく保存・利用されており、市街中心部の開放感とあいまって非常に感慨深いものがあつた。現在の中国医科大学は、一学年が学部1200名（医師課程600名を含む）、技術系500名に加えネットワーク教育4000名、病院も4医院（ベッド数2000+2000+500+1000）と1歯科病院(60)からなる巨大な大学である。

到着翌朝より大学を訪問した。今回の訪問の主たる目的は、①放射線科核医学の職員・学生を対象に、核医学、特にPETに関する入門講義と研究講演を行う、②相互情報交換を行うとともに継続的交流や共同研究の可能性を探る、③若手研究者指導を行う、等であつた。

①講義と講演は、16日、17日の二日間にわたり約1時間の入門講義を3件、講演を4件実施した。講義・講演題目は下記のとおりである。

#### 16日

1. 福井大学の紹介、日本における分子イメージング研究と政府の方針（講演）
2. 脳核医学入門（講義）
3. 低酸素がんの診断と治療（放射線科全体講演）

#### 17日

4. 心臓核医学入門（講義）
5. 腫瘍核医学・FDG=PET入門（講義）
6. 福井大学における腫瘍PET診断（講演）
7. サイクロトロンによる放射性同位元素製造（講演）

②福井大学および放射線医学総合研究所における核医学研究の現状を紹介するとともに、

16日の午前・午後にかけて中国医科大学附属第一医院核医学における診療設備とその運用状況について見学した。中国医科大学では、GE社製サイクロトロンならびに合成装置等を導入しており、世界標準といえるレベルの運用が実施されているが、臨床利用できる放射性薬剤はFDGに限定されており、C-11・コリンも若干の臨床経験がある程度とのことであった。またSPECT用薬剤も日本に比較して利用できる薬剤は限定されており、それらを考慮した共同研究体制の構築が不可欠であると認識した。一方で、教員や学生は非常に若く新しい技術の導入には非常に積極的である感触を受けた。今後の展開を促進するにおいては、中国からの短期・長期留学や日本からの短期人材派遣など種々の方法を模索する必要があると考えられた。

③今回の訪問に際して、李先生（核医学研究室大学院学生）と親しくなった。18日の空き時間を利用して約1時間にわたって博士論文研究について相談を受けた。日本に比べて若干制限の多い状況の下での遼寧省の特性を加味した臨床PET研究テーマの組み立て、研究実施に必要な下準備、論文検索法等を含めた指導を行った。

今回の訪問に際して、中国医科大学国際交流センター・才越センター長、潘伯臣副センター長に面談する機会を得た。お二人とも医学部教授としてご多忙な中で国際交流業務を果たされておられ、また日本語が大変堪能で英語が不要であるほどであった。日本からの留学生受け入れや日本語教育に熱心な大学であることはお聞きしていたが、その実現に十分に対応できる体制を基本から構築されておられる大学の姿勢に、大変感銘を受けた。









